

胆道癌と診断された患者さんまたはご家族の方へ

臨床研究に対するご協力をお願い

愛媛県立中央病院では、上記の病気で受診された方の検体や診療情報(カルテ情報)を使用して臨床研究を実施いたしております。本研究に該当する可能性のある方のご協力をお願いいたします。この研究を実施することによる患者さんへの新たな負担は一切ありません。

本研究への協力を望まれない場合、研究についての詳しい情報を希望される場合などは、その旨、以下の「問い合わせ先」までご連絡をお願いいたします。本研究への協力を望まれない旨のご連絡を頂いた場合は研究対象からは除外させていただきますので、検体や診療情報は利用されず、また他の研究機関への提供も行いません。

【研究課題名】 当院における胆道癌患者の予後因子に関する研究

【研究の目的】

胆道癌は胆管、胆嚢などの胆道といわれる場所にできる癌です。胆道は、肝臓でつくられる胆汁という消化を助ける分泌物を小腸に送る働きをしています。食事が十二指腸に届くと、胆嚢に一時的にためられて濃縮された胆汁が、胆嚢管、総胆管を通過して十二指腸に送り出され、小腸での脂肪の消化を助けています。胆道癌は、肝臓内から胆汁の流れの順番に肝内胆管癌、肝門部領域胆管癌、遠位胆管癌、胆嚢癌、十二指腸乳頭部癌(Vater 乳頭部癌)、ならびに広い範囲の胆管に広がる広範囲胆管癌に分類されます。本邦における胆道癌の罹患数は、がん全体で13位、死亡数では6位とされています。予後の悪い癌として知られており、5年生存率は、全病期で20%程度、進行度別では、限局しているもので61%、領域に及ぶもので28.5%、遠隔転移を認めるもので2.9%とされています。

近年、社会の高齢化と共に胆道癌患者は高齢化しています。愛媛県の高齢化率は全国平均より高く、胆道癌診療の将来像を見据えている可能性があります。

胆道癌の術後の予後不良因子は、組織学的分化度、リンパ節転移、血管、神経浸潤などが報告されていますが、特に切除不能例に対しては、重要な課題であるにも関わらず、よくわかっていないのが現状です。

そこで、今回我々は当院で胆道癌と診断された患者さんの身体所見、血液検査、画像検査を解析することで、胆道癌における予後因子を検討し、患者さんにより質の高い診療を提供したいと考えています。

【対象となる方】

2014年1月1日から2024年12月31日の間に当院で胆道癌と診断を受けた患者さん

【使用する検体・診療情報】

検体:なし

カルテ情報: 診断名, 年齢, 性別, 身体所見, 検査結果(血液検査・画像検査)

治療内容, 予後

【研究期間】

臨床研究審査委員会承認日から2026年3月31日まで

【個人情報の取扱い】

使用する情報からは、お名前、住所など、患者さんを特定できる個人情報は削除します。
情報は責任者が責任を持って、保管・管理・破棄致します。

また、研究成果は学会や学術雑誌で発表されますが、その際も患者さんを特定できる個人情報は公表いたしません。

【研究責任者】

愛媛県立中央病院

消化器内科 部長 兼光 梢

【問い合わせ先】

松山市春日町 83 番地

愛媛県立中央病院

消化器内科 部長 兼光 梢

電話 089-947-1111 FAX 089-943-4136